

基本目標1 支え合い助け合い 『人』がつながるまちづくり

実現するためにめざすこと	施策・事業	内容	令和3年度実績	進捗状況	課題等	コロナ禍を踏まえた事業内容の見直し	今後の方向性	担当部署
1 みんなで地域のつながりをつくる	1 高齢者の生活支援体制の整備	高齢者の生活支援・介護予防の推進を目的に、地域での生活支援・介護予防サービスの提供体制の構築に向け、地区社会福祉協議会の再編を行い、「生活支援コーディネーター」や「協議体」を設置します。	①協議体の運営を社会福祉協議会へ委託し、日常生活圏域ごとに7名、本部に1名の生活支援コーディネーターを配置し、地域の課題や社会資源の開発等検討し報告回答を行った。	○ほぼ計画どおり進んでいる	①地域の課題、ニーズに対して、今後の施策に反映できるかが課題である。	①コロナ禍だからこそ出来ることを協議体で協議を行い、感染予防を行い話し合いを行った。	維持	①健康支援課 (高齢者支援課)
	2 市民協働の推進	地域づくりや男女共同参画、NPO関連など、市民協働推進に関する事業をPRし、活動を促進します。	②市民活動応援サイト「みんなネット」を活用し、市民協働推進に関する事業をPRした。また、館山市の中学校にて、「生徒とともに身近な男女共同参画を考える」をテーマに、南房総地域の自治体と寸劇事業を実施した。	○ほぼ計画どおり進んでいる	②みんなネットの活用利便性(操作方法、掲載内容)、閲覧者にとっての有用性(掲載内容、画面構成)の継続的な検証。	②無し	維持	②市民課
	3 「地域づくり協議会」への支援員の配置	「地域づくり協議会」に「地域づくり支援員」を配置し、地域のさまざまな活動団体等との連携を調整して、市民と行政の協働のまちづくりを推進します。	②地域づくり協議会の支援及び地域づくりプロデュースを担うため、地域づくり支援員を各地区2名(高山、三芳、千倉、和田地区は1名)の計10名を配置し、協働のまちづくりを推進した。	○ほぼ計画どおり進んでいる	②地域づくり協議会メンバーの固定化や高齢化、活動のマンネリ化。	②無し	維持	②市民課
2 地域のさまざまな分野の機関とつながり、活動する	1 「地域づくり協議会」への支援	市の重点プロジェクトの一つである「協働のまちづくり」に向けて、「地域づくり協議会」に運営交付金を交付します。	②住民自らが考え主体的に行動する地域づくり協議会に、運営交付金を交付し支援することにより、地域の活性化が図られた。	○ほぼ計画どおり進んでいる	②地域づくり協議会メンバーの固定化や高齢化、活動のマンネリ化。	②無し	維持	②市民課
	2 市民活動応援事業	市民の自主的で多様なまちづくり活動を応援するため、それぞれの活動レベル・内容・組織形態等に応じた支援を行います。	②市民活動団体・NPO等の活動支援として、市民提案型まちづくりチャレンジ事業補助金を9団体に交付した。また「ちくらの壁面再生美プロジェクト」として、地区住民や地元アーティストと協働し、千倉地区の海岸道路護岸を新たな観光スポットとして創出した。	○ほぼ計画どおり進んでいる	②市民提案型まちづくりチャレンジ事業補助金の補助終了後の自立及び活動継続の支援。	②市民活動発表会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として会場での開催は見送りオンデマンド配信による成果発表を行った。	維持	②市民課
	3 企業・起業家への支援	地域にしごとをつくり、ひとの流れをつくるため、企業・起業家に対する支援を行います。	⑥新たな仕事と雇用創出支援事業 24件	○ほぼ計画どおり進んでいる	⑥令和3年度より実施した本事業は相談・実施件数が多く、ニーズに応えられている。	⑥コロナ禍により変化する景況に対し、必要とする対策を検討する。	維持	⑥商工課
3 地域交流の場をつくる	1 老人クラブへの助成	高齢者の生きがいを高め、健康づくりを進める活動やボランティア活動等のさまざまな活動への助成や、高齢者の孤立を防止、地域での見守り支援や介護予防の促進を図るため、単位老人クラブ内に「友愛活動チーム」を組織し、ひとり暮らし高齢者等の家庭を訪問するなどの友愛活動への助成を行います。	④令和3年度は、市老人クラブ連合会及び単位クラブの運営費及び事業費に対し補助金を交付した。なお、補助金交付に係る各団体の事務負担の軽減のため、複数あった補助金や委託事業を一本化する変更を行った。コロナ禍にあっても交流の場を維持するため、屋外で活動を増やす等各団体の創意工夫がみられた。 OR3年度単位クラブ数…51団体	○ほぼ計画どおり進んでいる	④会員数の減少や超高齢化による単位老人クラブの休止や解散が増加しており、高齢期の地域交流や地域参画の機会が減少している。	④コロナ禍の外出自粛による健康二次被害(フレイル等)を予防するため、介護予防体操の普及を推奨し、24団体が実施、うち9団体にに対し理学療法士有資格者を派遣を受けた体操教室を開催した。	維持	④健康支援課 (高齢者支援課)
	2 コミュニティ集会所の建設・改修への助成	行政区から要望のあった集会所の新築工事、改修工事の費用の一部を助成し整備することで、地域コミュニティを育みます。	②地域のコミュニティの基盤を維持するため、地域コミュニティの活動拠点となる集会所の整備経費に対し、補助金を交付した。	○ほぼ計画どおり進んでいる	②新築・改修工事の補助上限額の見直し。	②無し	維持	②市民課
	3 地域子育て支援拠点施設の運営	妊娠前から幼稚園入園前までの親子が利用できる施設を運営し、子育てについての相談、情報提供、助言その他の援助を行い、子育ての不安を和らげ、子どもたちの健やかな育ちを支援します。	⑨新型コロナウイルスの感染拡大に伴い緊急事態宣言が発令されたため、9月はすべての事業を停止した。しかし、その他の月については、利用者制限を行うことで通常に近い形で事業を継続することができた。日中、家庭で子育てを行っている母親達にとって子育て支援センターは、ほっと一息つける場であり、不安が和らぐ場であり、元気がもらえる場である。ほのぼのがやっていると困るとの声も多く聞かれた。継続した利用が多い。	○ほぼ計画どおり進んでいる	⑨新型コロナウイルス感染症の影響で、老人クラブや保健推進員など、外部の人達との交流行事が行えていない。双方で話し合い、感染症対策を行ったうえでの交流を考えていきたい。	⑨新型コロナウイルス感染症対策として、昼食の時間を中止にしている。マスクを外しての会食は、感染リスクが高くなるため、しばらくの間継続していく。	維持	⑨子ども教育課
	4 公民館活動の推進	公民館・生涯学習推進員主催の各種講座や教室を企画・運営し、市民の生きがいづくりと福祉の増進を図ります。	⑩「まちの先生」の企画講座・生涯学習推進員の主催による各種講座を企画運営し、市民の生きがいづくりと福祉の増進を図った。 37講座62回を開催し、742名の参加を得た。	○ほぼ計画どおり進んでいる	⑩新型コロナウイルス感染対策による講座の中止や募集定員の削減により昨年に引き続き開催回数や参加者数が減少したが、今後は「新しい生活様式」の中での開催可能な公民館活動を推進する必要がある。	⑩無し	維持	⑩生涯学習課
4 災害に備えた地域の連携体制を強化する	1 避難行動要支援者(要援護者)の支援	避難行動要支援者の名簿を作成して関係機関・関係者(民生委員・児童委員、自主防災組織等)に提供し、災害時の互助に役立てます。また、平常時から名簿を活用して対象者の状況を確認することにより、災害時に避難等が円滑に行われるよう備えます。	②災害時に各地域センターが現地対策本部となることから、関係者(消防団、民生委員・児童委員、自主防災組織・行政区)と互いに連携し、災害時を想定した安否確認訓練を実施した。 ④社会福祉課、健康支援課、市民課と協議の上、事業を実施した。 ①避難行動要支援者の対象者の確認にとどまっている。平常時の見守りで活用した者がいた。 ③避難行動要支援者名簿について、年4回の更新と新規対象者の追加を行い、避難支援等関係者に情報提供できた。また、災害時用の名簿についても年4回の更新を行い、災害に備え、常に最新の状態の名簿を作成している。	○ほぼ計画どおり進んでいる	②無 ④今後、役員が変更となる地区が毎年度発生するため、定期的な訓練や丁寧な引継が必要となる。 ①対象者の平常時における状況確認については、今後関係機関と相談し実施していく予定。 ③令和3年5月に災害対策基本法が改正され、避難行動要支援者の個別避難計画の作成が努力義務となった。優先度の高い方から5年以内にならなければならない。優先度の高い方の抽出はできているので、全庁的な作成スキームについて検討が必要。	②無し ④引き続きコロナ禍が継続している中、感染症対策に配慮しつつ、関係機関との地域連携会議を引き続き支援する。 ④コロナ禍では支援者の協力が限られる可能性があり、代替の支援も検討が必要か。 ④無し	維持	②市民課 ④消防防災課 ①健康支援課 (高齢者支援課) ③社会福祉課

基本目標1 支え合い助け合い 『人』がつながるまちづくり

実現するためにめざすこと	施策・事業	内容	令和3年度実績	進捗状況	課題等	コロナ禍を踏まえた事業内容の見直し	今後の方向性	担当部署
	2 福祉避難所への受入委託	「地域防災計画」による「福祉避難所」について、締結した協定に基づき、高齢者福祉施設・障害者福祉施設への受け入れを委託します。	⑬今年度は、大きな災害もなく、受入要請を依頼することはなかったが、福祉避難所開設基準に達した場合は、開設要請を行っている。 令和3年度開設要請 1回 また、新型コロナウイルス感染症に対応するため、福祉避難所運営マニュアルの一部見直した。	○ほぼ計画どおり進んでいる	⑬新型コロナウイルス感染症防止のため、福祉避難所協定施設からは受け入れは困難との意見が大半である。新型コロナウイルスまん延時の避難先の確保が課題である。	⑬災害対策基本法の改正等に基づき、コロナ禍を踏まえ、直接避難が可能な指定福祉避難所の指定に向けて高齢者福祉施設・障害者福祉施設と協議を行っていく。	拡充	⑬社会福祉課
	3 防災環境の整備と自主防災組織への助成	災害発生に備え、必要な防災備蓄品や備蓄倉庫、避難路の整備や避難場所標識の設置等、防災環境を整備します。 また、自主防災組織に補助金を交付します。	⑭避難所用の備品として自動ラップ式トイレ48台、発泡スチロールベッド68台を整備、備蓄倉庫の新設・更新を9箇所実施。また、期限の切れる非常食については年度内に更新（12,000食）を実施した。 本年度は三芳地区の避難所看板24箇所の更新を実施した。 自主防災組織への補助金は、18行政区に交付した。	○ほぼ計画どおり進んでいる	⑭避難所看板の設置については令和3年度をもって市内全地区整備完了した。 自主防災組織への補助金助成件数は、コロナ禍による組織活動の停滞もあり申請件数が減少している。	⑭無し	維持	⑭消防防災課
5 外出に困らない地域をつくる	1 外出支援サービス事業の検討	外出支援サービス先進地の取り組みについて調査し、新たな外出支援の仕組みについて検討します。	①南房総市地域公共交通計画を令和3年8月に策定した。今後、利用しやすい環境づくりとして実証運行など実施しながら地域にあった運行形態を検討していく。 ②社会福祉協議会が実施している公共交通空白地有償運送について、令和5年度から対象者の拡充を目指し協議を進めている。 ③昨年度協議した内容を踏まえ、買い物支援について健康支援課、社会福祉協議会と協議し、今後の取組について見通しを立てた。	①②○ほぼ計画どおり進んでいる ③△計画より遅れている	①公共交通としての取り組みと福祉的な観点からの取り組みについて調整を図る必要がある。 ②協議体や地域ケアチーム会議で地域課題として庁内外横断的に検討する必要がある。 ③コロナ禍により会議の参集が困難である。 市内でも地域差があり、一律の対応が困難である。	①②③無し	①維持 ②拡充 ③維持	①企画財政課 ②健康支援課（高齢者支援課） ③社会福祉課
	2 外出支援への助成	外出が困難な非課税世帯の高齢者がタクシーまたはバスを利用する場合に、その料金の一部または全部を助成します。	④高齢者外出支援タクシー券（1枚700円上限、最大25枚）及び高齢者外出支援バス券交付者（1枚160円、最大60枚）を交付した。なお、令和4年度から高齢者外出支援タクシー利用助成券について、1回の乗車につき2枚まで使用できるよう制度の見直しを行った。 OR3年度交付実績 タクシー券 283人 バス券 280人	○ほぼ計画どおり進んでいる	④バス路線の減便や撤退、タクシー事業者の運転手不足や廃業等により加速する公共交通の空白や不便を解消していく必要がある。	④新型コロナウイルスワクチン接種会場までの移動手段確保のため、高齢者外出支援バス・タクシー券受給者及び福祉タクシー券受給者に対し、1回の接種につきワクチン接種支援タクシー利用助成券（1枚4,000円上限、往復分2枚）を交付した。	維持	④健康支援課（高齢者支援課）
	3 市営路線バスの維持管理	市民の生活路線である市営路線バス（富浦線・富山線）の維持管理や改善を行います。	①市営路線バス（富浦線・富山線）について、バス事業者に業務委託をして運行及び管理を行った。	○ほぼ計画どおり進んでいる	①人口減少やコロナ禍の状況により、利用者が減少している。	①無し	維持	①企画財政課
	4 地域生活路線バスの維持	利用者の減少により存続が危ぶまれるバス路線を維持するために、事業者に補助を行います。 民間事業者が廃止した路線を、廃止代替路線としてバス運行します。	①赤字路線である4路線について、バス事業者に運行経費から収益を差し引いた金額を関係自治体との距離按分により補助を行った。 バス事業者が廃止した2路線について、廃止代替路線として運行を行った。 南房総・館山地域公共交通活性化協議会において「南房総・館山地域公共交通計画」を令和3年8月に策定し、今後、公共交通に関する各事業を行っていく。	○ほぼ計画どおり進んでいる	①人口減少やコロナ禍の状況により利用者減少が続いている。	①無し	維持	①企画財政課
6 福祉活動への意識を高め、担い手を増やす	1 福祉教育の推進	小・中学校での福祉教育を推進します。また、市民にも福祉教育の普及を図ります。	⑨各教科の学習や総合的な学習の単元において、「多様性」について学ぶ学習がある。支援を必要とする高齢者や視力や聴力など障害のある人についての理解を深める学習を、各小中学校が教科横断的に行っている。 ⑬新型コロナウイルス感染症感染防止のため、啓発活動や行事を実施することができなかった。	⑨○ほぼ計画どおり進んでいる ⑬△計画より遅れている	⑨高齢者施設は、クラスターの発生が大きく報道されている。そのため、児童生徒が高齢者施設を体験する学習が難しい。 ⑫コロナ禍での活動をどのように行うかという点。	⑨オンラインを通じた学習活動の在り方について、これから模索していく必要がある。 ⑬無し	維持	⑨子ども教育課 ⑬社会福祉課
	2 青少年赤十字活動への助成	「青少年赤十字活動」を行う学校に補助金を交付します。	⑬新型コロナウイルス感染症感染防止のため、学校での赤十字活動や日本赤十字社千葉県支部の研修・講習会が全て中止となり、活動できなかったことから補助金の申請がなされなかった。	△計画より遅れている	⑬コロナ禍での活動を考えていただけるかと市内に青少年赤十字活動を実施する学校がない点。今後、実施に向けて働きかけを行いたい。	⑬無し	維持	⑬社会福祉課
	3 介護人材の確保	介護職の人材確保、質の向上を目的に介護職員初任者研修または実務者研修に要した費用の一部を助成します。また、市内の介護施設等で介護福祉士として従事しようとする人に、修学資金を貸付けます。 外国人人材の育成・確保について検討します。	①介護職員初任者研修または実務者研修に要した費用の一部を助成した。 申請件数 9件 介護施設等で介護職として従事しようとする人に、修学資金を貸付けを行った。 申請件数 1件	○ほぼ計画どおり進んでいる	①無し	①無し	維持	①健康支援課（高齢者支援課）